

今　の　僕　は　私　に　な　っ　て　し　ま　っ　て　い　る　・　・　・　・　・

140

萩原良昭

今　の　僕　は　私　に　な　っ　て　し　ま　っ　て　い　る

しばらく、ボーと自分の部屋から北側の窓に両手を置き、その上にあごを乗せて伏見桃山城の方を眺める。

学校で日本史の授業の事を思い出した。
あの天守閣から、秀吉は京の町やこの宇治川の方を満足げに眺めていたのだなあ。天下を取った気分になつて。

京太に英語を教えて、終わると七時。

マンガを見て、すぐ部屋に戻り、寝てしまう。

僕はよく寝る。

どうして、皆、睡眠時間が七時間とかでやつて行けるのだろうか。

寒いと、床に入るのが一番いい。

そのまま、いろいろ想像しているとそのまま、自分で催眠術をかけた様にいつの間にか眠ってしまう。

僕はいつも夢を見ている。

一人の女性の完全な理想像を、その夢を見る。